

第28回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会

壮年部組手無差別級 (選抜・推薦7名) 見所

宮城良太 (二段 神戸六甲テコンドークラブ) の4連覇を阻むのは誰か?!

10年ぶり現役復活 小川浩平 (三段 東京城南テコンドークラブ) 父親の威厳を娘(8歳)の目の前で!

壮年部組手無差別級は、7名が選抜・推薦された。

本命は、3連覇中の壮年部不動の王者 宮城良太である。

約4年間、全日本FT大会および予選会・関西大会において他選手をまったくよせつけない実力を発揮し無敗である。



宮城良太コメント「リラックスした試合運びで勝利したいです」

宮城の顔色が、唯一、変わったのが、本年度予選会・関西テコンドー選手権大会壮年部無差別級の1回戦であった。相手は、小川浩平。

I T F時代のマイクロ級全日本大会チャンピオン（2度優勝）であり、現役時代から今日まで華麗な蹴り技の名手である。身長164cm、体重56kgと小柄ながら

2005年11月26日、後樂園ホール開催の第16回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会男子組手無差別級で4位入賞を果たしている。身長が低くあるいは体重が軽いことで悩んでいる小柄な選手の模範である。

河明生会長が最も信頼する門人の一人として神奈川大学体育会テコンドー部監督を任され、後身の指導に当たっていた。

「小川、壮年部の組手選手に渴をいれたい。年齢にかかわらず蹴美を目指せと！」

かわいい娘達に、後樂園ホールのリング上、金メダルで表彰される強いお父さんの勇姿を焼き付けたくないか」

という河会長の殺し文句で現役復帰を決意。

上記の関西大会に挑んだが、1回戦で対戦した宮城に本戦で敗れた。

閉会式後の末っ子の娘（小学校2年生）の言葉が小川の胸にグサッと突き刺さつてもいる（下段エピソード参照）

娘の言葉を間近で聞いた河会長。

「小川！ これで終わったら男じゃないぞ！！ 一生、娘に<弱いお父さん>、と思われてしまうじゃないか！！！」

小川が、娘達の前で宮城の4連覇を阻止できるかどうか注目したい。



小川浩平コメント

「12年ぶりに選手として参加した関西大会では壮年部のルールの違いに戸惑い、思うような組手ができませんでした。遠方にもかかわらず、駆けつけてくれた家族にも試合を見せることができず悔しい思いをしたので全日本大会では雪辱を果たし金メダルを取れるよう頑張ります」

関西大会（2017年8月13日 日曜日 彦根市民体育センター・滋賀県開催）閉会式後の小川家のエピソード

表彰式・閉会式終了後、小川が末娘（小2、8歳）をつれて河会長へ挨拶。

河「やあ、大きくなったね。お父さんの応援にきてくれたんだ！ えらいねえ」

河会長は、末娘の前歯がない頃、スカイプで話をしている。

毎年、中部・愛知大会に参加する神奈川大学テコンドー一部の遠征引率で娘達との大切な土曜日・日曜日を奪っているためケーキをプレゼントしてもいる。

小川「自分も、妻と子供達が応援に来てくれるとは知らなかったんです！」

河「そうなの。すばらしいね！」

小川三段の家は京浜急行の終着駅にあり（東京の品川から約2時間）、京急で品川へ、新幹線にのりかえて米原、彦根の体育館まで片道4時間30分前後かかる。しかも日帰りですら妻子3名。コストも約5万円かかる。

小川三段が満面に笑みを浮かべながらイキイキとした表情で胸を張って言った。

小川「はい！ これが小川家の愛なんです！！」

河会長は笑いながら

「悔しいねえ」

（愛がすでに時効消滅し、アイ～んだから、という理由らしい）

河「ところで小川の試合は見れたの？」

小川「いえ、それが、妻子が着いた頃には、自分の試合はすでに終わっていたらしいんです」

河「そうなのかあ～、わざわざ三浦半島から来たのに、1試合も応援できなかつたんだ。残念だったねえ、お嬢さん」と河会長が頭をなでようとしたら、末娘が、キャハッと微笑んで言った。

小川の娘「お父さんは、銅の色をしたメダルも、とれない男だったんだ！ キャハッ」

小川三段の表情がひきつり、額の真ん中に、多摩川のような川筋がピクピク浮いていたのだった。

前述したとおり、河会長が叫んだ理由である。

河「美男の小川に似て娘も美少女。だが、顔だけではなく、性格も似るのだな。

神奈川大学1年生の頃、入学して1ヶ月ほどの白帯なのに、

黒帯の4年の先輩の型の順序の間違いを指摘した18歳の頃の小川にそっくりだ。遺伝子は偉大だな」